



# 令和7年 新得町議会 一般質問レポート

産業の守り、環境の革新、そして人材の確保へ

# 本会議の主要論点：3つの柱



守り  
守り (Defense)

家畜防疫

鳥インフルエンザ・海外悪性伝染病の脅威への対策



革新  
革新 (Innovation)

環境・エネルギー

家畜糞尿の処理問題とバイオガス化によるエネルギー転換

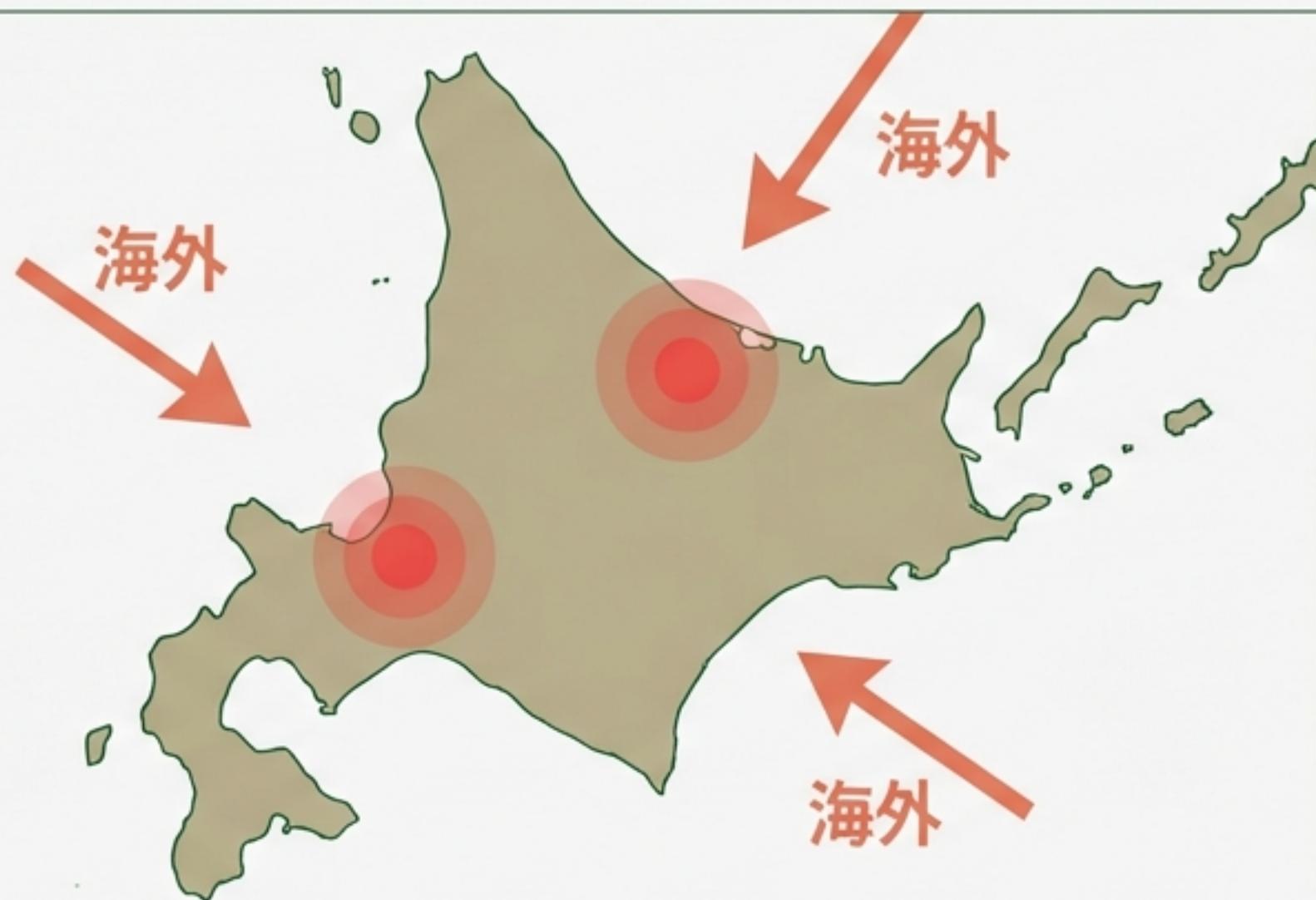


持続  
持続 (Sustainability)

人材・事業承継

人口減少社会における労働力確保と事業存続のモデル

# 迫り来る脅威：家畜伝染病のリスク



北海道内：すでに2件の  
鳥インフルエンザ発生

海外：アフリカ豚熱の多発

新たな変異：米国で乳牛への  
鳥インフルエンザ感染を確認

「明日は我が身という思いで、日々危機感を持っている」  
(若杉議員)

# 官民の役割分担：防疫の鉄則

行政・町 (Town) - セーフティネット

自衛防疫組合による全戸消毒

家畜特定疾病農家支援  
総合制度（再建支援）

連携

飼養衛生管理基準の徹底

「自らの家畜は自ら守る」

生産者 (Farmers) - 第1の防壁

# 規模拡大と気候変動のジレンマ



散布作業の遅延と農地受入容量の不足が、  
循環のボトルネックとなっている。

# 議論の焦点：広域堆肥センターの是非

## 【提案】集約型堆肥センター

大規模処理による効率化を目指す。



## 【回答】建設断念（バイオセキュリティ）

集約による病原菌拡散のリスク。  
発生源の特定が困難。



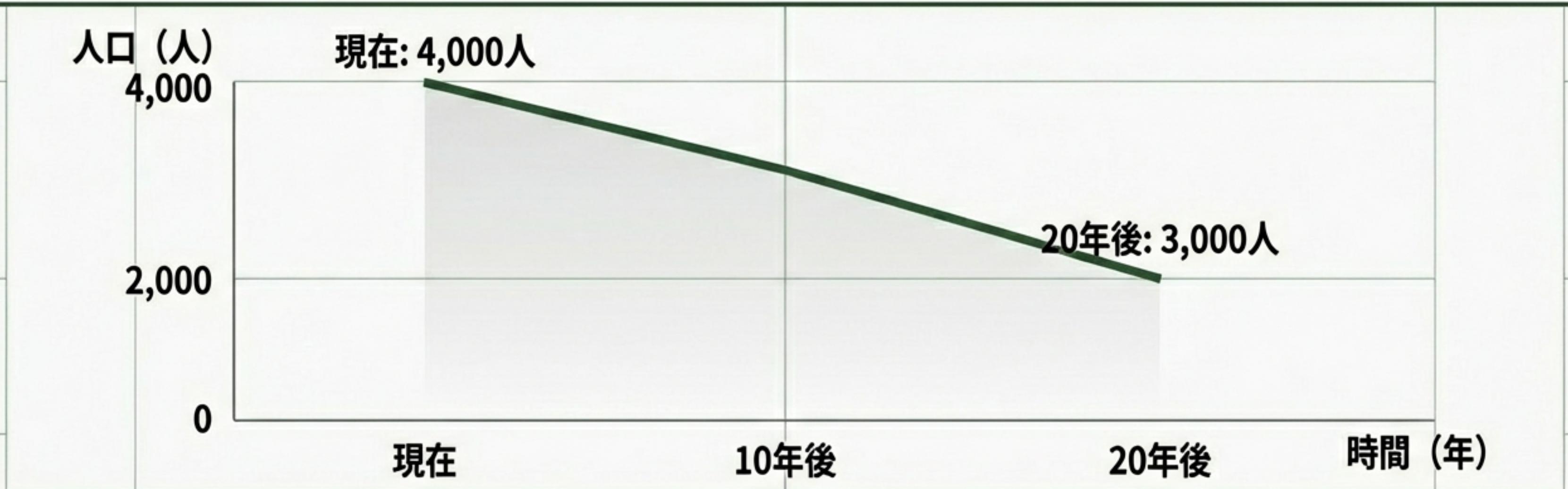
結論：個別処理を基本とし、感染拡大を防ぐ。

# 次なる解決策：液化バイオメタンへの転換



町の役割：JAの研究を後押しし、民間の資源循環モデルを支援する。

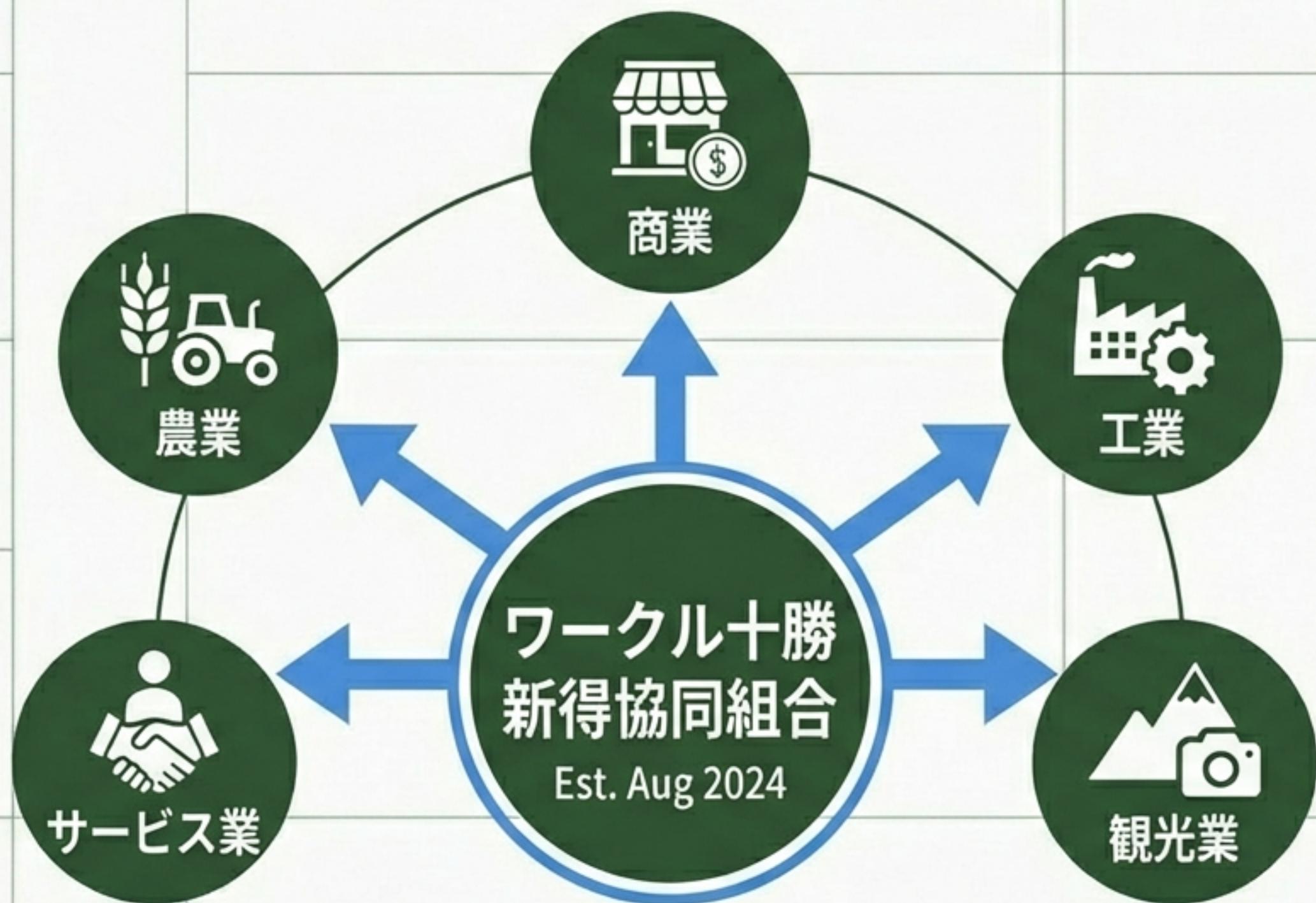
# 人口減少という現実：4,000人から3,000人へ



「大量生産・大量消費の時代は終わった」

人口密度の低下を前提としたビジネスモデルへの転換が不可欠。

# 人材確保の具体策：「ワークル十勝新得」始動



## 重要情報

- 仕組み：マルチワーカー（季節ごとの派遣）
- 現状：職員募集中
- 開始：来年1月中旬より派遣開始

# 10年後の事業承継：行政支援の限界と本質

## 議会の要望

- ・将来への「安心」できる制度
- ・コスト増対策への支援

## 町長的回答

- ・「企業の存続」≠「雇用の維持」
- ・黒字化・DXによる自律的承継

行政は環境整備を支援するが、  
生き残りは企業の変革にかかっている。

# 町長の政治姿勢：スピード感と慎重さ

|   |                     |
|---|---------------------|
| 人材・ソフト事業<br>(ワークル等)                       | スピード感重視<br>(Speed)  |
| インフラ・ハード事業<br>(処理施設)                      | 慎重さ重視<br>(Prudence) |
| 財政規律とバイオセキュリティのリスク管理<br>のため、大規模建設には慎重を期す。 |                     |

# 今後のアクションプラン

- 防疫：新年度予算での新たな予防策計上
- 環境：JA新得町との液化バイオメタン共同研究
- 人材（1月）：事業承継アンケートの分析・公表
- 人材（1月）：ワークル十勝新得 派遣開始

行政は民間と共に、変化に適応し続ける。